

# ヒシクイ

*Anser fabalis*

カモ科・旅鳥



ヒシクイ

## 名前の由来

沼などに生えているヒシ(菱)の実を食べるので、この名がつけられた。漢字名：菱喰

## 特定種

文化財保護法：国指定天然記念物

北海道レッドデータ：希少種 (R)

国レッドリスト(2007)：絶滅危惧Ⅱ類(VU)(亜種ヒシクイ)、  
準絶滅危惧(NT)(亜種オオヒシクイ)

## 形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)85cm。くちばしの先近くがオレンジ色の大きなガン。

体は黒褐色で足はオレンジ色。尾羽のすぐ上や下は白い。くちばしは大部分が黒く先端近くにオレンジ色があり、先端は黒い。

声：少し鼻にかかった「グッハ、グッハ」と聞こえる声でなく。マガンより少し太い声である。飛び立ったときには盛んに鳴き交わし、飛んでいるときにも鳴き交わしていることが多いという。

類似種と区別点：マガン。

マガンはヒシクイより一回り小さく、くちばしは全体がピンクまたはオレンジ色で、くちばしの基部の周囲は白い。声はマガンの方が少し細く「クッハ、クッハ」といった感じ。



撮影：浦幌野鳥倶楽部

ヒシクイ。黒っぽいくちばしの先近くに明るいオレンジ色



類似種マガン。オレンジ色のくちばしの付け根に白い部分

## 生息環境・分布

低地の湖沼、湿地、水田などに現れる。十勝では旅鳥で9～11月、3～4月に見られる。

本州北部では旅鳥である。

分布：ユーラシア大陸の高緯度地方に広く繁殖分布し、冬は同大陸南部に点在して過ごす。

北海道では旅鳥。春と秋に湖沼、河川敷、水田、草地などに飛来する。

日本では冬鳥として本州中部以北に渡ってくる。北海道や

十勝では旅鳥。十勝川の場合、春と秋に河口から豊頃町茂岩付近の湖沼、河川敷、草地などに飛来する。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期			■	■					■	■		
ユーラシア高緯度(繁殖期)				■	■	■	■	■	■			
本州中部以北(越冬期)	■	■	■	■						■	■	

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原)  
鳥類  
樹林

## 食性・他生物との関わり

種名が示すように渡ってきた当初、ヒシの実を食べ、その他草の葉・茎・地下茎・根茎・種子・果実などを食べる。湿地の地上を歩きながら採食し、畑地で麦の葉をむしったりもする。また水面ではくちばしをグチャグチャと動かしてこすようにしたり、首を入れたり、上半身を逆立ちするように入れたりして水草などを食べる。

## 繁殖生態

日本では、冬鳥として主として東北地方から北陸地方の限られた池や沼で越冬し、北海道や本州北部では旅鳥である。繁殖はユーラシア大陸の高緯度地方で行われる。繁殖期は5～7月で、一夫一妻で繁殖する。巣は藪の下などの地上に、草の葉、枯れ葉、コケなどによって皿形に作られる。大部分はメスが作り、産座には自分の綿羽を敷くという。4～6個の卵を産み、メスのみが抱く。27～29日くらいでヒナがかえり、まもなく巣から離れる。ヒナの世話は両親が行い、40日くらいで飛べるようになるという。

## 興味深い話

- 隊列を組んで飛行する姿は圧巻である。
- 春、マガンも交えて十勝川下流部の牧草地に1000羽を越える数がやってくる。ある年観察していると、観察者に気がつき一斉に飛び立った。視界が覆い尽くされ、ものすごい羽音に囲まれ、羽ばたきによる風圧まで感じた。
- 繁殖地ではつがいには分散するが、非繁殖地では家族を単位として行動することが知られている。
- 日本では基本的に本州中部以北にやってくるが、まれに九州や沖縄県にも現れることがある。
- 日本に来る越冬個体数は全体で3000～6000羽だという。
- ヒシクイにはくちばしが太くて短い「ヒシクイ」とくちばしが薄くて長い「オオヒシクイ」の2つの亜種（亜種とは、同じ種が地理的に隔離されることによって独自の分化をとげ、形態的に変化が確認できるもの）があるという。ヒシクイは寒帯のツンドラ地帯で繁殖し、オオヒシクイは亜寒帯の針葉樹林帯で繁殖するという。

## 配慮事項

渡りの中継地となっている湖沼を必要とする。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)  
「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000  
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)



ヒシの花や葉（左）と実（右）



刈り取り後のデントコーン畑のヒシクイ

- 十勝地方にはヒシクイとオオヒシクイ両亜種が来ているが、オオヒシクイが大部分を占めるという。
- 宮城県伊豆沼のものは大部分が亜種ヒシクイで、新潟県福島潟、滋賀県琵琶湖などに来るものは大部分がオオヒシクイであるという。



牧草地に降り立ったヒシクイの群れ（11月）

- 魚類
- 底生動物
- 両生類  
爬虫類
- トンボ
- チョウ
- 樹木
- (在来種) 草花
- (外来種) 草花
- 哺乳類
- (水辺) 鳥類
- (草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993  
「ガン類渡来地目録 第1版」宮林泰彦 編纂、雁を保護する会 1994  
横田義男ほか (1982) 日本のガンの分布、羽数および生息状況。鳥30 (4)  
呉地正行ほか (1983) ヒシクイとオオヒシクイの野外識別についての考察。鳥32 (2/3)